

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
令和6年度 分担研究報告書  
全国規模の肝炎ウイルス感染状況の把握及びウイルス性肝炎 elimination に向けた  
方策の確立に資する疫学研究

九州全体における新規肝癌発生数およびC型慢性肝炎患者の治療後の動向に関する研究

研究分担者 古賀 浩徳 久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門・教授

研究要旨

C型慢性肝炎患者の治療後の動向について検討した。SVR24を達成したC型慢性肝炎患者の約25%が外来通院を自己中断していた。中断時期はSVR24達成直後が多かったことから、外来における患者への再教育が重要であると思われた。

A. 研究目的

九州全体における新規肝癌発生数およびC型慢性肝炎患者の治療後の動向についての検討

B. 研究方法

1)九州肝癌研究会の参加施設に調査票を配布した。  
2)久留米大学病院におけるSVR24達成患者のデータベースを2024年10月下旬に構築完了し、その後、統計学的解析を行った。

(倫理面への配慮)

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(久留米大学)の倫理委員会で承認されている。

C. 研究結果

①研究協力機関19施設に調査票を配布したが、倫理審査上の問題が発生し、令和6年度の統計結果は得られなかった。

②久留米大学病院における2015年1月1日～2018年12月31日までの間のSVR24達成患者513例について解析を行った。「自己中断」した患者は130人(25.3%)いた。1.5年以内にフォローが途切れた患者129人の中では、「転医」が最多(91人, 70.5%)で、「自己中断」は若干多い程度だった(37人, 28.7%)。1.5年以内のうち6～8ヶ月以内に「自己中断」する患者が目立った。

D. 考察

SVR24達成した直後に外来通院を自己中断する患者が目立っていたことより、肝癌モニタリングの観点から長期フォローアップの重要性を外来で再教育することが重要であると思われた。

E. 結論

SVR達成後も注視すべき肝線維化や肝癌のリスクに対して適切なサーベイランスを行うためには長期フォローアップが重要であるため、外来での患者教育を通して外来自己中断を減らす取り組みが必要であると思われた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし

